

## 1. 調査報告概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4075000168		
法人名	有限会社 日新商会		
事業所名	グループホーム みずまき		
所在地	福岡県遠賀郡水巻町吉田西三丁目15-11 (電話) 093-202-8142		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成21年2月17日

### 【情報提供票より】(20年12月26日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.6人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り 2階建ての1階部分
------	-----------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	家賃に光熱費等含む	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(4年間)	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(12月26日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	94歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水巻共立病院 / ひだか歯科医院 / 梶原歯科
---------	-------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR東水巻駅より徒歩10分、水巻共立病院と道路を挟んだ隣接地の住宅地に2軒の住宅が複合したグループホーム水巻がある。近隣は交通や買い物の便がよく、入居者が地域住民の一員として生活できる環境が優れている。開設は平成14年で、水巻町在住の入居者がほとんどで家族の訪問も多く、入居者と外出したり、通院の支援なども職員だけでなく、家族の支えがあり、家族と共に支援している。健康面については、かかりつけ医の受診や緊急時の対応などが充実しているため、本人・家族も安心した生活が出来ている。職員は、入居者の自立支援を介護目標に掲げ、持てる力をいつまでも発揮出来るように安全面に配慮しながら、多様な創意・工夫のもと支援を行っている。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流についてはスーパーや病院などにホーム行事の案内状を掲示するなど、地域の方に参加していただけるように働きかけている。近隣の方が、お土産を持って来られたり、ボランティアの訪問も増えたが、まだまだ充分とはいえないので今後も課題として取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行うことによって、日々のケアやサービスを振り返ることができているが、今後は職員全員による自己評価の取り組みを期待したい。自己評価により、改善点が明らかになり、災害対策については、平成21年4月より防災管理者の選任が義務づけられ、具体的な計画策定や消防署による実施指導を受け、入居者の安全対策の充実を図っている。また、地域密着型サービスの役割として市町村担当者や自治会長など運営推進会議を通して情報交換を活かしていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの行事や入居者の状況報告を行っている。家族の参加もあり、意見や要望を言ってもらえる機会として活かし、出された意見や要望は、前向きにとらえ出来る範囲で対応している。参加メンバーの出席が限られるので、今後は、より多くのアドバイスを求める為に再度会議の意義を理解していただき、積極的に運営推進会議に参加していただけるように取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居時に苦情・相談窓口等について説明を行い、ご意見箱も玄関に設置し、他の相談窓口についても掲示している。入居時より、時間の経過と共に、本人・家族の状況も変化するので、日頃、家族が面会など訪問された時に意見や相談が気軽に出来るように家族とのコミュニケーションを大切にしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、回覧板の閲覧・清掃活動や地域の行事など入居者が出来る範囲で協力・参加している。地域で行われる子どもみこしをホーム前で見せてもらっている。また、スーパーや病院にホーム行事のチラシを配布し、ホーム行事への参加を働きかけている。警察・商店・散髪屋など近隣の方々にも協力を依頼し、地域との良好な関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	入居者が地域住民の一員として日常生活を穏やかに過ごせるように入居者の人権を尊重した自立支援サービスの提供を理念として掲げ、独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	居間の壁に理念を掲示し、職員各自が日常の生活支援での基本としている。また、ミーティングや事例検討等で、一人ひとりの支援について理念の共有を図っている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入し、回覧板の閲覧・清掃活動や行事など入居者が出来る範囲で協力・参加している。地域で行われる子どもみこしをホーム前で見せてもらっている。また、スーパーや病院にホーム行事のチラシを配布し、ホーム行事への参加を働きかけている。警察署や商店・散髪屋など近隣の方々にも協力を依頼している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価・外部評価についてはホームの運営改善に活かすよう心がけている。前回の評価についても課題(地域との交流等)として取り組んでいる。今後は、自己評価については、職員全員で取り組むことが望まれ、外部評価の情報の共有化に取り組むことが求められる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では家族の参加もあり、意見や要望を言っただけの機会として活かし、出された意見や要望は、前向きにとらえ出来る範囲で対応している。今後は、中々参加が難しいメンバー(市町村担当者/自治会長)への参加をお願いし、更に運営推進会議での情報交換を活発に行うことが期待される。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	平成20年6月まで広域連合による介護相談員の派遣を月に一回受け入れている。今年度は、市町村担当者は忙しく会議への参加が難しかった。今後は、会議に参加してもらえるように参加依頼については積極的に働きかけていこうと考えている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護は入居時に説明を行っている。また、ミーティング時に必要な方がいるかを話し合っている。今後は、権利擁護の職員や家族の理解を更に高めていくことが期待される。		入居者の生活を守るための法律や制度については複雑・多岐であり、今後は家族や地域の方々へのアドバイス等も必要となるので学習の機会を設け、職員全員が日頃より関心を持って支援出来るように取り組むことが期待される。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	日頃、訪問される家族については、その都度、ホームでの様子を職員より報告している。また、ホーム便りを発行し、入居者の様子を写真入りで紹介したり、個別に手紙で生活状況や健康管理について報告し、家族より喜ばれている。預かり金の収支報告についても確認とサインをいただいている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時に苦情・相談窓口等について説明を行い、ご意見箱も玄関に設置し、他の相談窓口についても掲示している。入居時より、時間の経過と共に、本人・家族の状況も変化するので、日頃、家族が面会など訪問された時に意見や相談が気軽に出来るように家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の異動はないが離職時については入居者へのケアやサービスが低下しないように申し送りや研修を兼ねて約1ヶ月ほどは重複採用し、入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用については特に条件はないが高齢者への理解と意欲が高い人材を採用したいと考えている。職員の得意分野の能力を入居者の生活支援にも活かし、料理や園芸など主体的に行ってもらい、他の職員も一緒に行うことで、サービスの向上に役立てている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権の尊重についてはホームの理念として掲げており、管理者自身が日々の支援で、その思いが職員へ伝わるように実践と会話を行っている。外部研修での内容についてもミーティングなどで伝え、職員全員で共有出来るように心がけている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	地域での研修については参加を促すと共に勤務時間の調整を行っている。また、日々の支援では努力をしているところを認め、不足分については助言・指導を行い、技術の向上に努めている。		人材育成はサービスの向上や自己啓発に繋がっているので、その意義や目的をしっかりと伝え、職員の経験や習熟度に応じた年間計画を作成し、研修の機会の確保に努めてほしい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者のホームを訪問し、情報交換を行っている。また、地域の介護相談会などにも参加・協力し、情報交換に努めている。今後は更に同業者のネットワークを高める取り組みに期待したい。		同業者との交流は職員同士の意見交換や仕事の悩みなど語り合う機会にもなり、それがホームのサービス向上に繋がるので、管理者はその認識を充分に持ってぜひ具体的な取り組みを行ってほしい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	ホームへの入居前より、入居者とのより良い関係を築くために自宅や病院を訪問し、家族や病院スタッフを交えた話し合いを行っている。また、入居後は、家族の面会を多くしていただき、徐々に馴染みの関係が作れるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者が日々自分の持てる力が発揮でき、その人らしい生活が維持出来るようにパートナーとして寄りそう時間を出来るだけ多く持ち、その中で入居者の知恵や生活術を学び、共に支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	ホームでの生活が普段と変わりなく維持出来るように本人・家族との会話を大切に、思いや意向にそった支援ができるように取り組んでいる。また、センター方式を活用し計画・実践に反映できるように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	介護計画は、ホームの理念である人権尊重・自立支援・穏やかな生活支援を念頭に作成している。個別支援については聴取したアセスメントが十分に活かされるように職員全員で検討している。作成した計画については家族へ説明し同意を得ている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居直後は情報の確認や修正が必要であるので、出来る限り入居者との会話の時間をもち、情報を把握するように努めている。変化があれば、その都度アセスメントし、新たに計画を作成をしている。記録についても具体的に記入し、それが定期的な評価やモニタリングに反映されるようにしている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	かかりつけ医の受診やリハビリ通院を職員で支援している。地域の方にはホーム行事の参加の呼びかけなども行っており、福祉関係の学生のボランティアを受け入れ・指導なども行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	2週に1度もしくは月に1度かかりつけ医を受診し、治療についての指導・助言を受けている。また、加えて医療面や感染症についての情報なども密に連絡を受け、健康管理を行っている。他科受診については家族へお願いしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に病状の異変や重度化についてはホームの方針として母体病院の医師の指示に従い対応し、出来る限りホームで暮らしていただけるように支援するが、病状悪化時には、看護師の配置がなく医療面での対応が出来ない場合もあるので入院していただくよう説明し、家族・本人より同意を得ている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日頃の生活支援では身体面・精神面へのプライバシー保持について、職員全員で遵守している。個人情報についても家族以外は閲覧できないように管理を徹底している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームとしての一日の生活活動や行事予定表等はあるが、あくまでも本人のペースを保てるように支援している。ただ昼夜逆転防止についてはレクリエーション参加など声かけを行い、興味を抱いていただけるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	職員が毎日輪番制で食事を準備している。入居者と買い物に出かけたり、作業テーブルを設け、野菜を切ったり、食器の拭きあげなど手伝ってもらっている。現在、食事介助者が1名なので職員も一緒に食事をしている。特に日曜日の昼食は入居者の希望の食事を提供し、食事を楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間等は決めてるが、個々の身体状況やニーズに合わせ、入浴の楽しみと身体の清潔保持に努めている。また、安全面の配慮のためリフト浴を設置し、入浴動作が困難な方に喜ばれている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	グループでのレクリエーションや行事参加以外に、個人の楽しみであるハーモニカ・大正琴・歌・野菜栽培などについても支援している。また、ボランティア活動の歌や踊りや地域の神輿の見学なども入居者の楽しみとなっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日の散歩は交通量の少ない住宅街を利用している。また、ごみ捨てや買い物に同行してもらったり、その時に地域の方々と挨拶したり、会話を楽しんでいる。また、入居者は家族との外出も大きな楽しみであるため支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関にはセンサーを設置している。安全面の配慮から各居室や居間の窓の鍵の施錠を徹底している。常に入居者の行動が黙視できるように声かけや見守りを行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地域への声かけを行っており、2ヶ月に1度は避難訓練を行っている。平成21年4月より防災管理者の選任が義務づけられたので消防訓練についても行っている。時間ごとの火元確認は職員で行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養面の管理については協力医療機関である栄養士による指導を受けており、個々の状況に合った支援を行っている。水分摂取についても1日の生活活動の中で食事以外のお茶の時間を設けており、必要量は確保できている。また、水分摂取の管理が必要な場合は摂取量を記録し健康管理を心がけている。体重測定は月1回実施している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関の周囲には花壇を作って季節の花を植え入居者に楽しんでもらっている。居間と食堂は、ゆったりとした椅子やテーブルが置かれ季節の花が飾られ家庭的な環境となっている。入居者の移動の際の安全を確保するために手すりを設置し、採光の配慮や空気の入れ換えについては、カーテンや窓の開閉をこまめに行っている。室温については温度計を設置し管理している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居間はフローリング仕上げでベッドと寝具・エアコンが設置され、自宅で使用した家具や家族の写真が持ち込まれ、自分の住まいとして過ごしやすい空間となっている。安全面の配慮として室内の整理・整頓に心がけている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			